

カノコユリ【鹿子百合】

科属:ユリ科 ユリ属

学名:Lilium speciosum

(Lilium:ユリ属、speciosum:美しい、華やかな)

和名由来:花弁の斑点を鹿の子絞りにたとえたもの。

花ことば:荘厳。上品。慈悲深さ。

わが佐世保との関わり

『カノコユリ』は、国内では絶滅が心配されていますが、佐世保市では、南九十九島一帯・世知原町・吉井町・里美町など海岸から山地まで、局所的ですが広く生育しています。

南九十九島が国内でも有数の産地であり、さらに、花弁の斑点模様が九十九島の島姿を表わしているように見えることから、平成14年4月、市制施行100周年を記念して「市の花」に制定されました。

同年、西海パールシーセンター九十九島調査室が行った調査において、南九十九島一帯に他のユリと交配せず、純血種のまま自生している『カノコユリ』が5千株以上確認されており、九十九島の自然の豊かさがあらためて証明されました。

花にまつわる故事

シーボルトが持ち帰って、ヨーロッパで初めて花を咲かせ、日本のユリの美しさを最初に欧米人に紹介した記念すべきユリ。純白の大輪で世界的な人気品種となった「カサブランカ」の系統はヤマユリやサクユリ、カノコユリなど日本のユリを主体に改良されたことで知られ、ジャパニーズハイブリットとも呼ばれ日本の自生ユリが世界に認められた何よりの証となっています。

ゆかりの市や地域

市花:魚津市、旧宗像市

九州、四国と台湾の北部および中国の江西省に自生。九州本土では薩摩半島から熊本、長崎、福岡の海岸線に、四国では愛媛、徳島県の山間部に自生しています。九州で最も自生密度が高いのは、鹿児島島の西、甕島です。



九十九島の海岸に咲いているカノコユリ



植物生態

主に山のがけ地にはえる多年草。海岸から標高400m程まで自生しています。

茎の高さは1~1.5m。葉は10~18cm。花は茎の先に普通5~12個程度つく。花被片は長さ8~10cmで反り返っている。見頃は7月中旬~8月中旬までで、遊覧船やシーカヤックから島々に映える美しい姿を見ることができます。



育て方など

土の乾燥と西日の強い直射を嫌います。一般には9月末~10月中旬に球根を植え、1度植えたら数年間はそのままにしておき、じっくりきく元肥を与えること。種から花が咲くまで約4年かかります。



その他

国立公園内に生育するものは採取できません。園芸品種は園芸店にて購入できます。

『カノコユリ』は環境省・長崎県、ともに絶滅の恐れのある植物として選定されています。古くから自生している貴重なユリの一つであり、佐世保市のシンボルフラワーですので、これからも大切にしたいものです。